

## 第2回若手研究者育成会の記録

東亜同文書院大学記念センター／リサーチアシスタント 高木 秀 和

2月17日の正午より、越知研究室の隣の会議室において、第2回若手研究者育成会が開催された。この会は越知研究員による特別の計らいで開催されるもので、今回は越知研究員のほか本学研究支援課の古河課長、山口氏、大学史事務室の小林氏、大島先生および同センターのP.D. およびR.A. が参加し、会食をしながら意見交換を行なった。

まず、記念センター事務室の豊田氏より「蔵居文庫の紹介」と題して報告があった。豊田氏は2007年8月に、藤田センター長およびP.D. の武井氏とともに蔵居氏の実家がある熊本に赴き、そこにある蔵書を段ボール箱に詰め込んで大学に発送したという。そして豊田氏は記念センター内の図書室で蔵書の整理と図書登録の作業を進め、「蔵居文庫」の整備を行なった。このような一連の作業を担当された豊田氏による報告は、蔵居良造氏略歴、蔵書数の内訳、内容的傾向と、今後なされるべき文献目録データベース構築のモデル事例の紹介から成るものであった。その内容を簡単に要約すると、蔵居氏は書院28期生であり卒業後は朝日新聞社で活躍され、中国・台湾関係の著書を数多く残されている。蔵書は図書が約3000冊、雑誌が75タイトル、約2000冊であり、基本的には戦後の出版物が中心である。その傾向は朝日新聞社関係、中国・アジア関係組織刊行物、中国・アジア

関係全般、その他に大別される。同氏の報告に対し、広中 R.A. からは蔵井文庫は記念センター内のどこに所蔵されているのか、越知研究員からは記念センターへ蔵居氏の蔵書が寄贈された経緯の事実確認に関する質問が出された。また越知研究員からは、今年4月以降にご子息の蔵居淳氏が記念センターを妨ねられるというので、その際には「父・良蔵氏を語る会」を開こうという提案が出された。

続いて暁 R.A. より今月21日に開催される研究会「書院生によるフルンボイルに関する調査報告書について」の予告と内容紹介がなされた。暁氏によると、フルンボイルは当時、満州国興安県に属しており、書院生は1925年以降、計8回にわたりこの地域を調査している。このような書院生たちが残した調査記録を用いながら、この地域の特性を明らかにしたいとした。この報告に対し、大島先生よりこの地域の支配体制はどうなっていたのかという質問がなされたが、暁氏は「半自治」の状態であり、当時の時代状況を反映して複雑な支配や自治体制であったと説明した。

なお、次回育成会は3月17日に開催される予定で、シカゴ出張の8名に対して愛知大学應援團からエールが送られること、R.A. の高木が報告を行なうことが確認され、閉会した。

